

59 風俗版画に現われた明治女子洋装の考察

昭和女子大 村井不二子

錦絵として完成され、春信や歌麿呂等によって黄金期を築いた浮世絵版画は、幕末を経て文明開化の明治に移ってからも、日清戦争前後（明治20年代）まで存続した。かつての江戸時代のような芸術的芳香は失われたとはいえ、写真術や印刷術が未発達な当時においては、今日のニュース写真のような役割を果たして、ほぼ正確な世相を伝えて人々に親しまれた。技術的にも小林清親などは、写実的な新風を導入してその効果を表わしている。これらが今日、当時の風俗を研究する重要な資料であることはいうまでもない。この中から女性の洋装を抽出して、その特質を考察してみる。

一方わが国女性の洋装の歴史は明治とともに始まるが、これは欧州19世紀後半の fashion mode 即ち Crinoline dress に続き bustle dress etc を移入したもの

である。これら fashion mode については多くの fashion plates に伝えられている。これら fashion plates と版画に描かれたものとの対比することによって、当時の女性洋装の特質が理解される。

結果は例をあげると、時間的に差異のあること、あるいはその全部ではなく選択が行われていることなどある。